



よしだいち 1964年大阪市生まれ。日本料理の職人を経て、23歳から佐川急便に勤務。28歳で独立し、運送業を始める。99年吉田物流株式会社を設立。独居高齢者の増加に伴い、遺品整理の需要増加を見込んで2002年に全国初の遺品整理専門会社「キーパーズ」を設立した。著書に『遺品整理屋は見た!』がある。

ちなみに、独居で亡くなる男性は意外に若く、団塊世代にあたる五六十代の人が多い。団塊世代は比較的豊かな世代だと思われていますが、その陰に埋もれ、孤独な生活を送っている人の方も少なくありません。家族、持ち家、資産、地位などのいずれも持ち合させていくなくて、ただ、がむしゃらに働き高度成長期を陰で支えてきた人たちだろうと思います。ある意味団塊世代の負け組になってしまったのか

もしませんね。場合によっては、せんべいのようにべつちゃんとで真っ黒な布団の中で孤独に亡くなっています。エアコンも無く、まつ黒でどろどろの部屋であることも多く、よくこんな部屋に何十年も住んでいたもんだと驚愕することも少なくないんですね。こうなると知人もほとんどなくなり会話を途絶えてしまうのです。そこで死後何日も経っていても誰にも気付いてもらえない……。

「ちなんに、独居で亡くなる男性は意外に若く、団塊世代にあたる五六十代の人が多い。団塊世代は比較的豊かな世代だと思われていますが、その陰に埋もれ、孤独な生活を送っている人の方も少なくありません。家族、持ち家、資産、地位などのいずれも持ち合せていくなくて、ただ、がむしゃらに働き高度成長期を陰で支えてきた人たちだろうと思います。ある意味団塊世代の負け組になってしまったのか

もしませんね。場合によっては、せんべいのようにべつちゃんとで真っ黒な布団の中で孤独に亡くなっています。エアコンも無く、まつ黒でどろどろの部屋であることも多く、よくこんな部屋に何十年も住んでいたもんだと驚愕することも少なくないんですね。こうなると知人もほとんどなくなり会話を途絶えてしまうのです。そこで死後何日も経っていても誰にも気付いてもらえない……。



かやまりか 1960年北海道生まれ。東京医科大学卒業。精神科医。帝塚山学院大学人間文化学部人間学科教授。臨床経験を生かして、新聞、雑誌などのメディアで社会批評、文化批評などを手がける。著書に『ぶちナショナリズム症候群』『NANA—恋愛勝利学』『テレビの罠』『就職がこわい』『結婚がこわい』『老後がこわい』など。

はもとより、孤独死したということ、遺族にとつては「恥だ」という意識や断られるのではという意識が強かつたみたいですから。

香山 どのくらいの件数を扱っていますか?

吉田 年間二五〇〇件程度の依頼があります。正確なデータを取ったことはないのですが、大雑把にいって、八九割が独居高齢者の方の遺品整理です。

また、死後何日か経つても死亡が確認されず遺体が死臭を放つなど、部屋がきれいな状態でないケースが全体の一割を占めています。女性は高齢になると大抵は家族と同居するためでようか、片付ける独居高齢者宅のほとんどが男性なんですよ。

香山 奥さんに先立たれたとか、離婚抗がつたりしたんですか?

吉田 業務の依頼に抵抗はないみたいでしたら、亡くなつた原因を隠そっとする人は今より多かつたですね。自殺

香山 確かに、女性だと高齢になつてもそれなりに生活を豊かにエンジョイしたりして、友達もいて、なんとかなつちやうのかもしれませんね。

吉田 ホームレスが男性ばかりという現実を見ても、それはいえますよね。いろいろな現場を見ていて思うことですが、世の中が便利になつたから、高齢者でも一人で暮らせるようになつた半面、引きこもりの独居高齢者を生む素地にもなつていて。一昔前なら、独居老人といつても、スーパーに行つて食材を買い求めたりする中で地域の人にも会つたでしょう。そうでなければ外食ですから、これもまた人に会う機会がありました。

ところが、今はコンビニで簡単にお弁当を買ることができます。誰ともしゃべらずに食事にありつける環境が整つているから、独居高齢者は社会との関係を絶つことが可能になる。コンビニの存在が独居老人のひきこもりを助長していると、ごみだらけの独居高齢